

講義年月日	2003年5月14日 (水)
講演者	加藤 好郎氏 (慶應義塾大学三田メディアセンター事務長)
テーマ	RLGの戦略と慶應義塾図書館・電子図書館の方向性
講義内容	<p><b>1. 学術情報流通の現状と環境の変化</b>  ・デジタル情報基盤ワーキング・グループの審議のまとめ」・ジャーナルアナリシス</p> <p><b>2. SPARC (Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition)</b>  学術出版と安定的購入モデル構築</p> <p><b>3. 情報流通基盤に対する基本的取り組み</b>  ・国立大学での学術情報発信 発信部署 発信情報 電子化率</p> <p><b>4. 学協会からの学術情報発信</b>  科学技術振興事業団 (J-STAGE)、国立情報学研究所 (NACSIS-OLJ) など</p> <p><b>5. 海外への発信と流通支援</b>  ポータル機能 (大学、学協会、国立大学)</p> <p><b>6. 慶應義塾図書館の7つの戦略</b>  ・7つの戦略の一つ : 研究・開発の推進  MARCの統一、文字コード、Z39.50の開発など  日本の図書館が標準化、開発しなければならない問題  共同開発や外国の研究機関との共同開発を考えるのも一つの方法</p> <p><b>7. Research Libraries Group</b>  非営利メンバーの共同体  ・コラボレーションでの調査研究サポートと情報アクセスの改善が使命  ・慶應義塾大学メディアセンターがRLGのジェネラルメンバーになった目的  共同利用、共同開発 : ILL Manager (RLGのシステム)  METS (RLGのメタデータ化のシステム)  CMI (RLGの電子図書館ビジネスモデル)</p> <p><b>8. 結論</b>  インターネット環境下のサービス体制構築  ・コンソーシアムの充実  各種DBにおける契約形態の見直し等  RLG SHARES、ILL Managerへの参加  学術情報と発信  ・デジタル資料からテキスト、論文まで  効率の良い発信方法の確立 : メタデータ作成  ・デジタル資料とコンテンツ作成の組織の確立  RLG CMIへの参加</p> <p><b>9. 国際シンポジウムの紹介 ~ RLG会長ジェームス・ヨイルコ氏の講演</b>  将来の図書館サービス、特にリサーチ・インフォメーション・サービスの将来について</p>
感想	<p>加藤氏によれば、カタログはメタデータを扱うのに適している、問題は図書館に予算がつくかどうかである、とのこと。</p> <p>講義からは一貫して、研究者が図書館に来なくなることへの強い危機感が伝わってくる。情報発信をどこがどのような媒体で行うか。研究者の論文等の情報発信を図書館が行うことによって、研究者を図書館にひきつけようとしている。</p>
配付物	<p>「リサーチ・ライブラリー・グループの事業展開と慶應義塾図書館」  James Michalko, "Research information services in a global, networked environment: the RLG perspective" (日本語訳 加藤好郎氏)」  「21世紀のレファレンスサービスとはどんなもの」</p>